

山梨県スポーツ指導者協議会

会報

第十五号

平成17年
3月31日
発行



山梨県スポーツ指導者協議会

会長 田草川 光男

変化するスポーツニーズを支える

財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度は、国民スポーツの振興と競技方向上にあたる指導者の資質と指導力の向上・指導活動の促進と指導体制確立を趣旨として制定され、各競技別スポーツの多様なスポーツ活動に対応した指導者を一貫したシステムで養成することにより、位置づけと役割資格認定の社会的信頼を確保し、組織的な活動と促進を図られることを目的にしている。

この制度のもと資格認定を得た高い資質の指導者が県下各地域・各層で本県のスポーツ振興を支えている。この指導者の皆さんは公認スポーツ指導者制度が設置するスポーツ指導者協議会の構成員でもあり、本県のスポーツ指導者協議会も多様な場面で活動されるこの皆様に支えられている。

本県では本協議会の活性化策として十五年度までに組織と事業の見直しを行い、十六年度はこれを総会で承認いただき、それを受けて理事会・専門委員会等事業等のための作業を行って参りました。そのようななか、活動促進・広報普及・組織財源の各専門部長であります岡村、篠原、雨宮部長、さらには担当頂いた本会の松野、向山、若尾副会長には改革の初年度としての方向性について熱心に取り組んで頂いたことに深く感謝しています。

さて十六年度全国スポーツ指導者連絡協議会、関東ブロック会議、茨城県土浦市開催では、日本体育協会スポーツ指導者育成部から「指導者制度の改革について」「望ましいスポーツ指導者と資格移行」についてのデモンストレーションがあり、各県・地域のスポーツ指導者協議会は、インフォメーション・オフィサー（情報伝達者）としての役割の必要性も実感させられた。また地域・学校、企業、行政が一体となつて全ての人が参加できるコンセプトとして「試みが全国で進んでいる、総合型地域スポーツクラブづくりは、資質の高い公認スポーツ指導者の積極的な関わりが必要不可欠の条件であることがこの会議で繰り返し説明されました。

今後とも本県が進める「健康で明るい生活を支える豊かなスポーツライフの実現」を図るため、会員の皆様にはますます多様化するニーズに応え支えることが新たな仕事となつていくことを考え、会員の皆さんにはさらなる多忙の日々が予想される。

平素会員の皆様から頂いているご協力に感謝し益々のご活躍を祈念するとともに、県体育協会事務局のご指導とご支援に感謝し挨拶とします。

関東ブロック会議に出席して

副会長 向山 眞悟

平成十六年度、第二回全国スポーツ指導者連絡会議・関東ブロック会議が六月十八日（金）・十九日（土）茨城県土浦市で開催され会長、副会長三名、体協内藤氏の五名が出席した。

開会式後、全国幹事会決定事項の伝達は特になし。平成十七年度の関東ブロック会議は千葉県で開催する。日体協より、平成十六年度の事業説明、ネットワーク体制整備の方策検討について趣旨説明がされた。

次に、日体協職員より「公認スポーツ指導者制度の改定について」（移行・望ましい指導者含む）のデモンストレーションが行われ、各都道府県代表委員によるプレゼンテーション実習があり、茨城県代表委員によって行われた。

二日目は、茨城県の提案事項①「公認スポーツ指導者制度の改訂について」、②「望ましいスポーツ指導者と資格移行」③「ドクター、トレーナー、プログラマー、コーチ及びスポーツ指導員の統括した組織作りについて」、④「スポーツ指導員の行政上の位置付けについて」、各都県の対応状況、今後の対策について意見が交わされた。

生涯スポーツ社会の実現を図るために、多彩なニーズを包含し、多様な活動が可能となる地域に密着した総合型地域スポーツクラブの育成や、そのサポート等を行う広域スポーツセンターの設置等が全国的な広がりを見せているなか、総合型地域スポーツクラブには、会員へのスポーツ指導や、スポーツとの出会いを演出するスポーツ教室の実技指導を担当する競技指導者やフィットネス系指導者などのコーチングスタッフが必要であり、また、会員が日常のスポーツ活動を安心して行うために、スポーツドクターなどのメディカル・コンディショニングスタッフとの連携も必要となる。さらに会員が継続的に快適なクラブライフを送るための環境を整備するとともに、クラブ内のそれぞれの指導者が、それぞれの立場で能力を活かして活動できる環境づくりとクラブを健全に継続して運営するためのクラブマネージャーなどのマネジメントスタッフが必要となる。

今後全国的に「総合型地域スポーツクラブ」の創設・育成が進むことを考えた場合、数多くの資質の高いスタッフが求められ、有資格指導者の新たな活動の場が広がっていくことがさらに期待される。

スポーツ指導者 資格情報 変わります！指導者制度

●新たな公認スポーツ指導者制度における指導者の分類と役割

本会では、望ましい指導者制度を構築するため、「スポーツ振興基本計画」や「二十一世紀の国民スポーツ振興方策」にあげられている将来のスポーツ活動を見据え、関係団体へのヒアリングや有資格指導者、受講者等に対するアンケート調査を実施し現状把握をするとともに、ライフステージにおけるスポーツへの関わりを踏まえ、そのスポーツ活動の場として期待されている「総合型地域スポーツクラブ等」で必要とされるスタッフを、マネジメントスタッフ、コーチングスタッフ、メディアカル・コンディショニングスタッフと整理し、平成十七年度（二〇〇五年）から新たな指導者制度をスタートさせることとしました。

●競技別指導者資格

資格	役割	認定により備えられる知識と能力
指導員	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子供たちや初心者を対象に、競技別の専門知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。 特に発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導にあたる。 地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。 施設開放において利用者の指導支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する基礎的知識 ボランティアに関する基礎的知識・競技者育成プログラムの理念と方法 初心者に対する基礎的指導法
上級指導員	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。 事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割を担う。 地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。 広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 競技者育成プログラムの理念と方法 多様な能力やニーズに対する指導法 スポーツ教室や各種イベントの企画立案 組織の育成に関する知識

●現行における有資格者の新制度への移行について

現行資格をお持ちの方々は、長時間にわたる講習と難関の試験を受け合格し、さらに指導者としての実績を積んできた方ばかりです。従いまして、認定団体の責任として、今回の制度改定によつてみなさんに不利益が生じないよう、新制度の役割に即した適切な資格への移行を図ります。移行に関する基本的な考え方は次の通りです。

- (1) 基本的な移行先は図1、2、3に示すとおりとするが、現状の指導活動と新規制度での役割、備えられる知識と能力、指導対象者などから、専門科目実施団体が移行先を決定する。
- (2) 競技別指導者のうち現行制度上で、同一競技で「C・B・A級スポーツ指導員」のいずれかと「C・B・A級コーチ」のいずれかの資格を有している場合も、新制度では二つの資格に移行する。
- (3) 資格移行のための補講講習会は実施しない。
- (4) 平成十七年十月一日を持って新資格へ移行（ただし、登録証等の送付については段階的に行う）

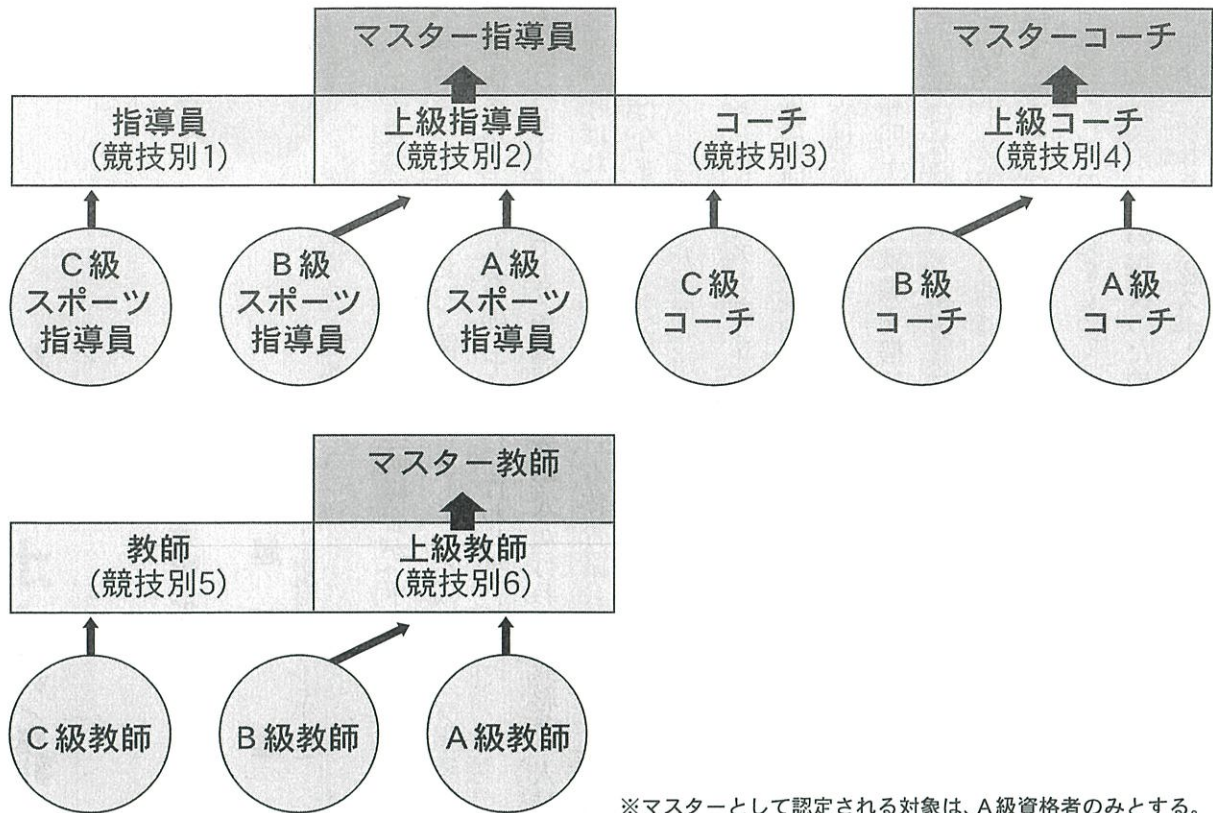
図1は競技別指導者資格の移行です。現行制度では、C・B・A級スポーツ指導員（地域スポーツ指導者）、C・B・A級コーチ（競技力向上指導者）、C・B・A級教師（商業スポーツ施設における指導者9と3つの領域にそれぞれ3段階の資格が制定されていますが、新制度では、すべての資格の共通項目カリキュラムを統一しましたので、複雑に役割を細分化していたものを整理・統合することができました。

《現行資格からの移行》

- C級スポーツ指導員は「指導員」に移行
- B級A級スポーツ指導員は「上級指導員」に移行
- C級コーチは「コーチ」に移行
- B級A級コーチは「上級コーチ」に移行
- C級教師は「教師」に移行
- B級A級教師は「上級教師」に移行

ただし、現在A級スポーツ指導員、A級コーチ、A級教師の資格を有する方でそれぞれ上級指導員、上級コーチ、上級教師に移行する方のうち、「指導者としての資質・能力が特に優れ、当該領域の指導者の育成・指導等にあたる者」として競技団体の推薦があった方で、指導者育成専門委員会の承認が得られれば、それぞれの資格で「マスター」の称号を付与する予定です。（「マスター」とは、前述の役割を担う方の称号であつて資格ではありません）

競技別指導者の資格移行(図1)



※マスターとして認定される対象は、A級資格者のみとする。

事務局 (会計)	組織、財源部	広報普及部	活動促進部	副会長	会長	専門部	担当者	仕事内容
	若尾重廣(副会長) 雨宮愛子(部長) 十二名	向山真悟(副会長) 篠原達夫(部長) 十二名	松野伝(副会長) 岡村勝幸(部長) 二十二名	●三名	●一名			<ul style="list-style-type: none"> 全体の統括 組織ビジョン(長期計画・指針の立案)
	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブとの連携と対策 各関係団体との連携と対策 競技、支部連絡協議組織の立ち上げ NPO法人立ち上げの検討 登録会費の徴収(県・支部・競技) 受益者負担、還元制度の確立 助成事業の確保 スポンサー獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 会報作成(計画立案) 執筆者の依頼 名簿作成 ホームページの開設(広域スポーツセンター) マスコミ(新聞・テレビ・ラジオ)対応 	<ul style="list-style-type: none"> 支部、県研修会の計画立案(講師選定) 各競技団体義務研修制度 県外視察研修制度 研修派遣指導者(役員)選出 各競技団体、支部の状況把握と改善策立案 地域スポーツの現状把握と改善策立案 一貫指導体制の構築(システム・立ち上げ方法) 一貫指導マニュアル(作成・立ち上げ方法) 各競技団体の指導者バンク(広域スポーツセンター) 指導者派遣制度 表彰制度の確立(日体協・県体協) 	<ul style="list-style-type: none"> 各専門部の統括 会長補佐 				<ul style="list-style-type: none"> 各専門部の統括

●公認スポーツ指導者協議会 専門部会

理事会の活性化、組織運営の効率化を図ることを目的として、専門部会を設置し、各専門部に役員・理事の方に所属してもらい、専門部ごとの活動がスタートしました。

公認スポーツ指導者表彰を受賞して

公認スポーツ指導者表彰を受賞して



竹 越 富 雄
(B級スポーツ指導員・バスケットボール)

平成十六年度公認スポーツ指導者全国研修会が、平成十六年十二月十八日、東京ホテル海洋において開催されました。公認スポーツ指導者と多数の関係者が全国から参加して盛大に行われました。

開会式につき公認スポーツ指導者の表彰式が行われ、表彰者一人ひとりの名前が呼ばれた後、代表者が安西日本体育協会会長より表彰盾を渡された時は今まで歩んできた道を振り返り本当に感謝の思いでした。

表彰式に続き元NHKアナウンサー西田善夫さんによる特別講演、つくば言語技術教育研究所所長の三森ゆりかさんによる特別講演、シンポジウム、情報交換会と非常に内容のある研修会でした。

私自身、昭和四十九年就職を機に高校の指導や審判員をしながら昭和五十四年に公認スポーツ指導者の資格を取得し、昭和六十二年からは地域のスポーツ少年団の指導者をしてながら、地域のクラブ育成と普及に関わってきましたが、今回の受賞を機に今後一層精進を重ね公認スポーツ指導者としての自覚をもつて、地域スポーツクラブをさらに発展させると共に本県スポーツの振興のために微力ながら努力していきたいと考えています。終わりに公認スポーツ指導者表彰を受賞できました事を、関係各位に心から感謝申し上げます。

公認スポーツ指導者表彰を受賞して



中 澤 寛 行
(B級コーチ・バレーボール)

— 高校生のクラブ指導について —

この度、平成十六年度公認スポーツ指導者表彰を受けたことは身に余る光栄であり、今日までご指導いただいた方々に心から感謝申し上げますとともに、私自身の引き締まる思いであります。

さて、私は三十年間高校の男子バレーボール部を指導してまいりました、高校の部活動は、勝敗にこだわるだけでなく、礼儀を学んだり、体力を付けたり、仲間との協調性を養ったりと様々な目的が一杯含まれています。この全部を完成させることは極めて難しいことだと思いますが、できるだけ部活動を通じて人間教育ができればと思います、日々努力をしております。

公認スポーツ指導者制度が本格的になったのは私が三十才の頃だったと思います、これからのスポーツ指導者は有資格者でなければならない、ということになり、当時私も必死になって勉強したことを覚えていきます。

おかげさまでその当時勉強したことが、それからのクラブ活動に大変役立ちました。

指導者というのは、常に向上心を持ち、自らを精進させることが大切ではないかと考えます。

私も今回の受賞を機に今後とも精進を重ね、地域社会のスポーツ活動に貢献したいと考えております。



公認スポーツ指導者表彰を受賞して

有賀 健

(B級コーチラグビーフットボール)

この度、平成十六年度公認スポーツ指導者表彰を受けたことは身に余る光栄であり、今日までご指導いただいた方々に感謝申し上げますとともに、私自身、身の引き締まる思いであります。私とラグビーの出会い高校時代から始まり、高校三年次の花園ベスト8、日本体育大学での大学日本一、リコーでの社会人日本一、また、日本代表選手として六回の海外遠征、このような貴重な経験や、体験が今でも、脳裏に浮かんできます。しかし、一番大事なことは、スポーツを通じて得た貴重な体験や経験が今の自分を支えているということではないでしょうか。それから二十七才で教職という指導者の道に入りましたが、現役時代と違い自分の努力だけではなかなか結果はつけないと指導者の難しさを痛感いたしました。日川高校ラグビー部の指導では一回でも全国大会の決勝の舞台に立ちたいという思いばかりで指導してまいりました。現在、山梨県ラグビー協会の理事長という責任ある立場にあります。今回の受賞を機に今後とも精進を重ね、若い指導者の育成、ラグビー協会をさらに発展させると共に、本県スポーツ振興のために微力ながら努力していきたいと考えております。



平成十五年度公認スポーツ指導者全国研修会

若尾 重廣

(山梨県スポーツ指導者協議会副会長)

十二月十八日(日)東京・ホテル海洋にて開催され、本県からは七名が参加した。開会式に続き公認スポーツ指導者等二五九名の表彰が行われ、本県からは、竹越富雄(バスケットボール)、中澤寛行(バレーボール)、有賀健(ラグビーフットボール)の三氏が表彰された。引き続き「特別講演」「講演」「シンポジウム」が行われた。

〔1〕特別講演「選手を活かす名監督の言葉」西田善夫氏

(スポーツアナリスト、北区教育委員長、主著「スポーツと言葉」)

NHKスポーツアナウンサーとして、プロ野球、高校野球、また東京オリンピックから夏冬十回の実況を担当、豊富な経験で培われた西田節。高校球界の名監督、甲子園で二度の全国制覇を成し遂げ七十二歳で勇退した木内幸男氏の言葉を引用しての「指導者として選手に対する言葉かけの大切さ」を語り、含蓄ある内容に全国から参加した会場一杯の指導者を魅了した。

〔2〕講演「コミュニケーションスキル」三森ゆかり氏

(つくば)こどもの考える力とやる気を引き出すスキル「言語技術教育研究所長・主著「言語技術の体系と指導内容」他多数)

子どもの能力を引き出すために必要なのは「言葉」である。コミュニケーションスキルは単に分かりやすく話すためのスキルではなく、深く論理的に考えるためのスキルでもある。スポーツ指導の現場では技術の指導やチームワーク作りに言葉は必要不可欠である。指導者は二方向的に子どもに話すのではなく、子ども自身を考え、表現させるように、働きかけることが重要であり、コミュニケーションスキルはそのために必要にして有効なスキルである。…と問題ゲームなど具体例を出し実践を通して力説された。

〔3〕シンポジウム「スポーツによる社会貢献」スポーツに何ができるのか」

コーディネーター 宮嶋泰子氏(TV朝日アナウンサー)、シンポジスト 荒井貞光氏(広島市立大教授)、大澤勇 平成十五年度海外研修員)、生重幸恵氏(東京都生涯教育審議委員他)

現在地域を取り巻く、社会環境は、様々な状況により大きく変化している。その中において地域住民が自らの生活や地域の振興、活性化を図るためその地域の特徴を生かした様々な取り組みをしている。その一つの手段として、「スポーツ」もツールとなり得る。では「なぜスポーツ」なのか、「スポーツ活動」によって地域住民の生活や地域の振興・活性化がどのようにはかられるのか。それぞれの立場で発表された。

今までは「泊二日の研修であったが、今回は一日に短縮された。その為、時間的ゆとりはなかったが内容の濃いものであった。特に、指導者として選手のやる気を引き出すための「言葉かけ」の重要性が再確認できた研修会であったと思える。研修会の最大の目的は「指導者の資質の向上」にある。この研修会は、時宜にあったテーマのもと毎年開催されます。より多くの指導者に積極的な参加をお願いしたい。

尚、この研修会の内容は「スポーツジャーナル」に掲載されるのでぜひご覧下さい。

平成十六年度山梨県スポーツ指導者 研修会に参加して

ストレッチ運動実技講習会を受けて

南都留支部 羽田 由貴子

平成十六年五月十六日、北杜高校で行われた、県スポーツ指導者協議会総会・指導者研修会に参加しました。前半は、健康科学大学学部長井出隆俊先生による「トレーニングの科学」の講演が行われました。ストレッチング運動の本来の目的は、身体の柔軟性を高めることであり、柔軟世獲得がスポーツ外傷の予防につながるといわれていることなどから、ストレッチ運動の重要性・必要性和効果についてパワーポイントを使い、実技を交えながらわかりやすく説明していただきました。練習前後のストレッチ運動が事故防止に大変重要な役割を果たしていることがよくわかり、非常に為になる講義でした。

後半では、自分自身でストレッチ効果を実感するために二人一組になり、意識的な筋収縮を用いた方法を試してみました。ストレッチ運動をする前に比べて、前屈ではかなり楽に曲がるようになるなど、驚くほどの効果が現れました。

指導者として、ストレッチ運動の理論的根拠や有効性を認識し、今回の研修会で得た知識をよく理解し、ストレッチ運動の重要性・必要性を競技者に伝え、指導していきたいと思えます。

平成十六年度山梨県スポーツ指導者 研修会に参加して

テーピング実技指導を受講して

東山梨支部 遠藤 泉

平成十六年五月十六日、北杜高校で県スポーツ指導者協議会総会、指導者研修会が開催され健康科学大学井出隆俊教授をお招きし「トレーニングの科学」と題しての講演をお聞きし、スポーツ障害や外傷について理解を深めました。その後、県の理学療法士会の講師の皆さんにより、ストレッチ、テーピングや応急処置の実技指導を受けました。

私は、講習会に参加させていただき今年度で三回目の受講になります。日頃のスポーツライフを楽しむために怪我をしたらまず、何をしたら良いのか？テーピングの性格と目的を理解した上で実際に現場で役立てたいと強く思っておりましたので何度も何度も実技指導を受けることは私にとって大事なことでした。あるスポーツの大会で競技中、右足をひねった様子でうずくまった選手に手を拱いているチームが目に入りました。まず何をすべきか冷静に判断でき知識を持ってサポートできる人材が必要だと思いました。スポーツには必ず傷害は起こりうる事を頭に競技者全員処置について、知っておく事も必要ではないかと感じます。

一人でも多くの方に研修会に参加していただき広く普及できる体制を整えたら幸いです。

これからも機会がありましたら研修会に参加し受講した事を今後の活動に生かして行きたいと思えます。

平成十六年度山梨県スポーツ指導者

研修会に参加して

応急措置実技研修を受けて

大月市 佐藤 剛

スポーツ指導員として二回目の更新のため義務研修を受けることになり出席し講演「トレーニングの科学」を聞き次に応急措置については万一の事故に備えてのものであるが、その基本前提としては事故を未然に防ぐための努力をし事故を起こさない心がけが大切であり応急措置はけが人や急病人を病院へ連れて行き、または救急現場に医師、救急隊員が到着するまでの間に生命が危険であったり症状が悪化するおそれがあると認められる場合に行う。この場合比較的簡単に短時間で行うことができ効果をもたらすことが客観的に認められている処置で必要やむを得ない処置にとどめること。

実技ではアイスバッグに氷の入れかた、アイシングの効果、外傷、障害の処置、損傷の広がりや痛みを防止するには「安静」内出血、腫れ、炎症を抑制するには「冷却」内出血や腫れを抑制する「圧迫拳上」など、RICE処置等をはじめて聞く専門用語の多い研修であったがこのことをよく理解し万一のときには役にたつよう復習しています。

今迄に全く真剣に受講できましたことに講師の先生方に感謝しております。

平成十六年度

山梨県スポーツ指導者協議会理事会報告

平成十六年度は、四回の理事会が行われ、左記の内容が話し合われた。

【理事会】

- ・〈第二回〉平成十六年四月二十二日(木) スポーツ会館研修室
- ・平成十五年度山梨県スポーツ指導者協議会事業報告・決算について
- ・専門部規約について
- ・平成十六年度・十七年度理事・役員(案)について
- ・平成十六年度スポーツ指導者協議会事業計画・予算について
- ・平成十六年度スポーツ指導者協議会総会・県研修会について
- ・〈第二回〉平成十六年五月二十五日(火) スポーツ会館研修室
- ・組織図、専門部について
- ・平成十六年度理事・役員について
- ・各専門部長の決定
- ・各専門部への理事・役員所属について
- ・〈第三回〉平成十六年九月一日(水) スポーツ会館研修室
- ・平成十六年度会報について
- ・平成十七年度公認スポーツ指導者研修会について
- ・専門部会(活動促進部、広報普及部、組織・財源部)
- ・〈第四回〉平成十七年二月二十四日(木) スポーツ会館研修室
- ・平成十六年度会報編集について
- ・平成十六年度事業報告・決算について
- ・平成十七年度事業報告計画・予算(案)について
- ・平成十七年度総会・県研修会について
- ・各専門部より
- ・専門部会(活動促進部、広報普及部、組織・財源部)

平成十六年度事業報告

期日	会議の名称等	会場等
平成十六年 四月二十二日(木)	●第一回 理事会	スポーツ会館研修室
五月 七日(水)	●会計監査	緑が丘体育館会議室
五月 十六日(日)	●平成十六年度山梨県スポーツ指導者協議会総会(研修会)	北杜高校
五月二十五日(火)	●第二回 理事会	スポーツ会館研修室
六月十八日(金) 十九日(土)	●第二回全国スポーツ指導者連絡会議(関東ブロック・県代表者参加)	茨城県
九月 一日(水)	●第三回 理事会	スポーツ会館研修室
十月十七日(金) 十八日(土)	●第二回全国スポーツ指導者連絡会議 ●公認スポーツ指導者全国研修会(県代表参加)	東京 日体協 東京ホテル海洋
平成十七年 二月二十四日(木)	●第四回 理事会	スポーツ会館研修室
三月三十一日(木)	●会報仕上がり	

平成十七年度事業計画(案)

期日	会議の名称等	会場等
平成十六年 四月二十二日(金)	●第一回 理事会	小瀬武道館研修室
五月 六日(金)	●会計監査	小瀬
五月二十一日(土)	●平成十七年度山梨県スポーツ指導者協議会総会(研修会)	小瀬武道館研修室
五月二十五日(水)	●第二回 理事会	小瀬武道館研修室
六月十七日(金) 十八日(土)	●全国スポーツ指導者連絡会議(関東ブロック・県代表者参加)	千葉県
九月 一日(木)	●第三回 理事会	小瀬武道館研修室
十月九日(金) 十日(土)	●第二回全国スポーツ指導者連絡会議 ●公認スポーツ指導者全国研修会(県代表参加)	東京 日体協 東京
平成十八年 二月二十三日(木)	●第四回 理事会	小瀬武道館研修室
三月三十一日(木)	●会報仕上がり	